

理事長告辞

学校法人九州文化学園 理事長 安部 直樹

例年になく寒さがいつまでも続くかのような日々の中にも、校庭には露の臺が顔を出し、香しい白梅、紅梅がほころび始めました。そこはかかない春の序章が力強い鼓動へと変化しつつある本日、第9回の卒業証書・学位記授与式を挙りましたところ、大変お忙しい中、朝長佐世保市長をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席、衷心よりお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、小学校、中学校、高等学校、大学と都合16年、薬学部につきましては18年にわたる学校教育、その間のご心労に思いを巡らせますと、まさに感慨一入でいらっしゃるかと拝察いたします。おめでとうございました。

さて、卒業生の皆さんは、いよいよ旅立ちを迎えます。奇しくも明日は、東日本大震災から1年。約1万6000名の方が犠牲となり、3200名を超える方々が、今なお行方不明であるという未曾有の大震災でした。しかし、日本は復興という二文字を掲げて、再生の道を歩み出しました。人が人を支え合う、人間の絆をも再確認した年でもありました。自然災害という途轍もない大きな力に対し、直接抗うことはできませんが、人は、人のために心を携えあって再び立ち上がろうとしているのです。そして、卒業される皆さんは、相（すがた）こそ違え、その人の輪の中に、実践力を身に着けた確固たる担い手として加わってゆくのです。どうか皆さん、地域の根となり、実となって堅実な地域再生の担い手となって下さい。

本学が公私協力型大学として地域の熱い期待の中で誕生し、9回目の卒業式という積み重ねをする一方、この日本は、少子高齢問題・経済の停滞等、前途は厳しさが山積しています。だからこそ、“いつも、人から。そして、心から。”のモットーの中で、人を愛し人から愛されるという社会の根本というべきものを学び育った皆さんは、真に貴重な存在と言えるでしょう。大学の学問の集積はまさにその為にありました。皆さんの若さとエネルギーと知恵が、これからのあらゆることに必要なのです。前向きに生きて行って下さい。積極的に歩んで行って下さい。この長崎国際大学に残した皆さんの青春の魂は不滅です。皆さんの前途に、幸多かれと祈り、告辞いたします。